

ふね遺産 第1回 応募案件－24

「ふね遺産」（応募様式）：A4一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

2016年12月7日提出 氏名（個人名または団体の代表者名）：越塩 俊介  
 所属（個人は住所）：鹿児島大学水産学部  
 メールアドレス：dean-sk@fish.kagoshima-u.ac.jp  
 その他の連絡先：sumoto@fish.kagoshima-u.ac.jp

	内容	備考
1. 対象物・資料の名称  ・所属 または所有者	練習船『霧島丸』遭難碑  鹿児島大学水産学部	霧島丸 998トン、4本マスト・バーケンティン型 参考図1
2. 対象物の作成・存在時期	遭難碑 1930(昭和5)年建立・現存  記録物『壮烈』1927(昭和2)年頃作成・現存	
3. 現状 (写真添付)	遭難碑 	遭難碑は鹿児島県鹿児島市下荒田4丁目50番地20号の鹿児島大学水産学部(下荒田キャンパス)敷地南西角付近に建立されている。  記録物は現在、水産学部一号館二階に展示されている。  別紙写真参照 遭難の碑 写真1 遭難碑の全景 写真2 記録物「壮烈」写真3
4. ふね遺産認定基準の該当項目	【認定対象】 3,4 【認定基準】 4,12,13	
5. 歴史的・工学技術的意義	1927年3月9日、県立鹿児島商船水産学校の練習船『霧島丸』は、南洋への遠洋航海中に海況の急変による壮烈な嵐に遭遇して犬吠埼沖で遭難した。多くの艦船が捜索にあったが、霧島丸に関する遺品を発見することができなかった。殉職者53名(実習生30名)の海難に世論も押し上げて第55回帝国会議で安全な練習船建造の予算が計上されて、旧『日本丸』・『海王丸』が建造された。加えて、霧島丸の海難がきっかけとなり、日本の練習教育での安全性重視の理念のもとに旧航海訓練所(文部省)が設立された。日本近代練習船教育の礎となるものである。	関連物として初代『日本丸』の模型が文部省(当時)から移譲され、水産学部一号館中会議室に保管展示されている。  記録物『壮烈』の書は東郷平八郎元帥の直筆である。
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	別紙参照	